



## 縄文時代の新潟県との交流

2002（平成14）年、新潟県立歴史博物館で、新潟県の考古学研究者達が、常陸大宮市下村田の坪井上遺跡から発掘された1点の土器を取り囲みました。「五丁歩の土器とソックリだ。」と第一声があがりました。新潟県魚沼市の五丁歩遺跡の土器とよく似ており、魚沼地方で作られた土器が常陸大宮市まで運ばれたのではないかと意見が出されました。この時期の縄文土器を研究テーマとする私もその場に居合わせました。

この土器は、縄文時代の中頃（今から約5,000年前）のもので、この時期、東北地方から常陸大宮市を含む関東地方北部では、縄目模様“縄文”と立体的な装飾で飾られた縄文土器が流行します。しかし、先ほどの坪井上遺跡の土器には“縄文”が見られません。粘土紐と線だけで装飾しています。このような土器は、北陸地方に多く見られます。そのため、この土器が魚沼地方から運ばれたと判断されたのです。北陸地方を代表する有名な「火焰型土器」も、線と粘土紐だけで文様を描いています。市内の西埜遺跡（野口）からは、「火焰型土器」を真似て作った土器が発掘されています。



考古部会専門調査員 塚本 師也  
（公益財団法人栃木未来づくり財団  
埋蔵文化財センター調査課長）

坪井上遺跡からは、ヒスイで作った玉（首飾りと推定）が8点出土しています。1遺跡で8点の出土は全国1位です。縄文時代のヒスイの玉は、すべて新潟県糸魚川産で、北海道から沖縄まで発見されています。茨城・栃木の北部は多く出土する地域の一つです。

これらのことから、今から約5,000年前の常陸大宮市の人々は、ヒスイの玉や縄文土器などを通して、新潟県地域の人々と深く関わっていたことが分かります。このように、遺跡から発見された他の地域の特徴を持つ土器や石器から、過去の人々の地域間の交流の様子を明らかにすることができます。これは、考古学が得意とする分野です。



▲坪井上遺跡（下村田）から出土した縄文土器



▲西埜遺跡（野口）から出土した火焰型土器



▲硬玉製の大珠（市指定文化財）

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎ 52-1111（内線 344）